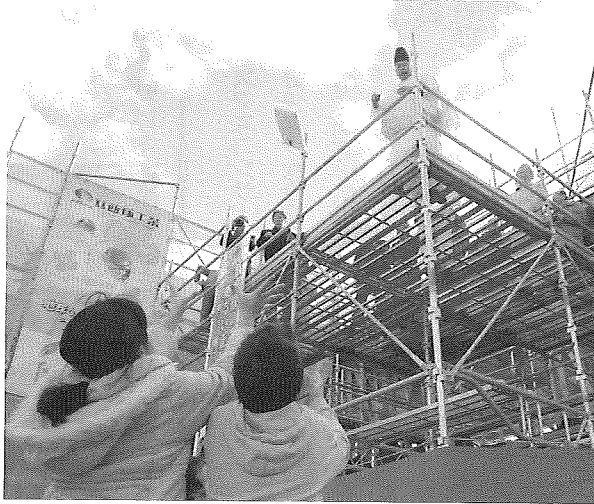


新たな地域の介護事業

認知症グループホームが上棟

介護を必要とする認知症高齢者が共同で日常生活を過ごす「認知症グループホームわいわい白州」の上棟式が、12月17

日、白州町の同施設で開かれ、関係者が安全な工事を祈念し、伝統的な餅撒きに多くの地域住民が参加した。完成は今年3



認知症グループホームの上棟式で行われた餅まき

月末を予定し、現在入居者を募集している。このグループホームは、敷地面積約1600平方メートル、延べ床面積約550平方メートルの木造2階建てで、要介護認定を受けた認知症高齢者が日常生活を営む上で必要な設備と個室などを設けている。定員は18人。入居者の意思を尊重して、徹底した自立支援を行うほか、地域住民が利用できる交流スペースを設け、市内の社会福祉施設やグループホームと連携を図るなど、地域に密着した施設の運営を目指しているという。

昨年1月に、地域住民の保健・福祉の向上を目的に設立された「一般社団法人だんだん会」（宮崎和加子理事長）が取り組む事業の一環で、質の高い地域密着型サービス提供の実現を目的に、市が指定したグループホームとなっている。

宮崎理事長は、「地域の人のために活動する一心で、頑張っていきたい。認知症グループホームの完成を出発点に、今後市内で様々な事業を展開していきたい」と話し、訪問看護事業や居宅介護支援事業などの開設を予定している。

市内における認知症グループホームは、長坂町の「グループホームやすらぎ」に続く2カ所目で、市の介護支援課は、「この施設を拠点に、地域の介護事業が発展することを目指し、認知症高齢者への地域住民の協力や理解を深めていきたい」と話している。問い合わせは ☎45・9566まで。